INFORMATION

LECTURE&EVENT

※詳細は各主催者にお問い合わせください

秋も深まり、街にはコートを身にまとう人の姿もチラホラ。しかし應典院は熱気でいっぱい。さまざまな催しが企画されています。会員のみなさんも、ぜひご参加ください。

太鼓センター和太鼓一日教室「太鼓ばやし」

太鼓の魅力を全身で感じる講座。9月に続き、今回も演目別の一日講座。12月には「ぶちあわせ太鼓」の一日講座も予定しています。

○11月16日(日)10:00～16:00
○6,300円(学生5,250円)
○太鼓センター　TEL 075-392-6975

大阪NPOセンター設立記念 大阪NPOアワード'97

各地に芽生える様々な分野の市民団体の活動を発表しあい、相互啓発と交流を深める大阪NPOアワード'97。やる気あふれるみなさんの活動を募集します。

○11月29日(土)14:00～
○大阪NPOセンター　TEL 06-361-5307
※応募資格等あり

林洋子ひとり語り 宮澤賢治の世界

昨今ブームの宮澤賢治。賢治は、何を考え、何を語ろうとしたのか。1200回を超える公演を重ねる林洋子が語る賢治の童話。今、時を超え賢治の世界がよみがえります。

○11月30日(日)14:30～
○前売り　大人2,000円、小人1,000円
　当　日　大人2,500円、小人1,200円
○李由子　TEL 0742-44-6634

花、写真、つの展示会を開催

気づきの広場や1階壁面などを使って、花、写真2つの展示会が連続して行われます。應典院全体の空間をどのようにアレンジし、表現するのか注目です。ぜひ、ご参観ください。

【花工房・翠　秋花展】
○期間…11月15日(土)～16日(日)
※15日　PM1:00開場

【大芸大生写真展】
○期間…11月9日(日)～14日(金)、
11月25日(火)～12月2日(火)

寺子屋トーク第6・7弾

在宅介護ネットワーク代表 西脇創一さんを迎えて

わたしたちの老後は大丈夫なのか？

介護とは人と地域の新しい関係づくり。高齢化社会にふさわしい、血縁を越えた介護制度と地域のあり方を問い直します。また、人間らしい「末期」を迎えるために、これからの終末ケアを考えます。

すべての家族に必要な〈介護のこころ〉について語り合いませんか。

○11月8日（土）14:00～16:00
○1,000円（会員500円）
※要電話予約
○寺町倶楽部事務局
TEL 06-771-7641

◆　◆

京都大学助教授 カール・ベッカーさんを迎えて

あなたは何のために生きていますか？　子どもに生きることの価値や意味を伝えていますか？

いかに死ぬかは、いまどう生きるかを問うこと。子どものこころに、生と死の鏡を写す。

臨死体験の世界的大家があなたに語る「クオリティ・オブ・ライフ(生の質)」のメッセージ。

○12月9日（火）10:00～12:00
○1,000円（会員500円）
※要電話予約
○寺町倶楽部事務局
TEL 06-771-7641
詳細は、同封チラシをご覧ください。

大盛況!!
舞台芸術祭「SPACE☒DRAMA'97」

10月3日から始まった舞台芸術祭。各公演とも盛況のうちに終了し、いよいよ上海太郎さんのひとり芝居「ABSURD～アブサード～」を残すのみとなりました。

上海太郎さんは、劇団「そとばこまち」を経て、1989年に「上海太郎舞踏公司」を設立。セリフを用いず、ダンス・パントマイムをベースにした短い場面を積み重ね、壮大でイメージ豊かなドラマを構成する独特のスタイルを確立した、人気舞踏家です。

タイトル「ABSURD」は「不条理な、ばかげた」という意味。今公演について上海さんは「今までの作り方は計算して、論理的にやってきたが、今度は、自分を解放して、自分がおもしろいと思うことを突発的にやってみようと思っている。そういう意味でもタイトルは『ABSURD』＝『でたらめ』しかないでしょう」と語っています。キーワードは「自分らしさ」と「変化」。

会員のみなさんも、劇場空間になったシアトリカル應典院にぜひお越し下さい。

上海太郎ひとり芝居「ABSURD～アブサード～」

◆10月31日(金)　19:00～
11月1日(土)　①15:00～、②19:00～
11月2日(日)　15:00～
11月3日(祝)　15:00～
◆料金：前売3,000円、当日3,500円、
寺町倶楽部会員2,500円
◆前売取扱：チケットぴあ、チケットセゾン
◆問い合わせ：上海太郎舞踏公司　TEL06-477-0291


▲上海太郎氏

サリュ VOL.4
應典院寺町倶楽部のニューズレター

発行日　1997年10月20日
(偶数月発行)
編集長　金下玲子
編集スタッフ　池野　亮、綾田直子
発行所　應典院寺町倶楽部
〒543 大阪市天王寺区下寺町1-1-27
TEL06-771-7641
FAX06-770-3147

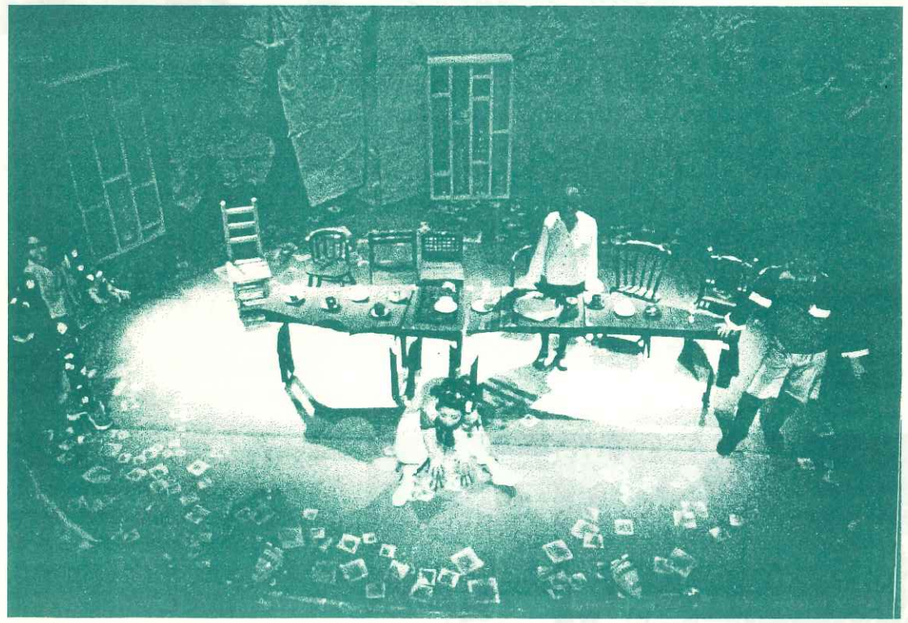
應典院寺町倶楽部のニューズレター

Salut

［サリュ］
フランス語で救いの意

1997 OCTOBER
vol.4

放課後の倶楽部活動を始めよう



時節柄、学校の近くを歩くと、文化祭や体育祭の歓声に出会うことがあります。そこでふと思うのですが、寺町倶楽部の活動も、そういう文化祭のような形になっていけば良いなと感じるのです。

もちろん、文化祭や体育祭といった学校行事とは違います。先生も居ませんし、スケジュールがあるわけでもない。ただ、自分のやりたいことを企画して、みんなに手伝ってもらって作りあげていく、その過程で心の交流を深めたり、得難い友人に出会っていく。そういうプロセスが、寺町倶楽部の目指しているものに似ているような気がするのです。

呼吸でひろがるイメージ

寺町倶楽部の活動に関して

應典院寺町倶楽部が発足して４ヶ月経ちますが、倶楽部の活動がよくわからない、そういう声を耳にします。それは現状では当たり前だと事務局では考えています。

寺町倶楽部の活動は、会員の手で作っていくもの、会員一人ひとりが、やってみたいことや誰かと一緒にやりたいことを出し合って、少しずつ形にしていくものだからです。もちろん学校ではありませんので、参加しないと落第するとか、しかられるといったことはありません。ただし、じっと見ているだけでは“寺町倶楽部の活動”という手触りは得られないでしょう。

この“寺町倶楽部の活動”についてみなさんと考えてみたいと思い、今回は事務局からのメッセージをお届けすることにしました。

應典院の呼と吸

應典院の催し物に参加された方はきっと“何か”を吸収してこられたことと思います。何かを考えるきっかけを得られたことと思います。

そこで得られたものを、私たちはどのように活かしているのでしょうか。人が、息を吸い、吐いて生きているように、やはり呼と吸のバランスは大切なのではないでしょうか。

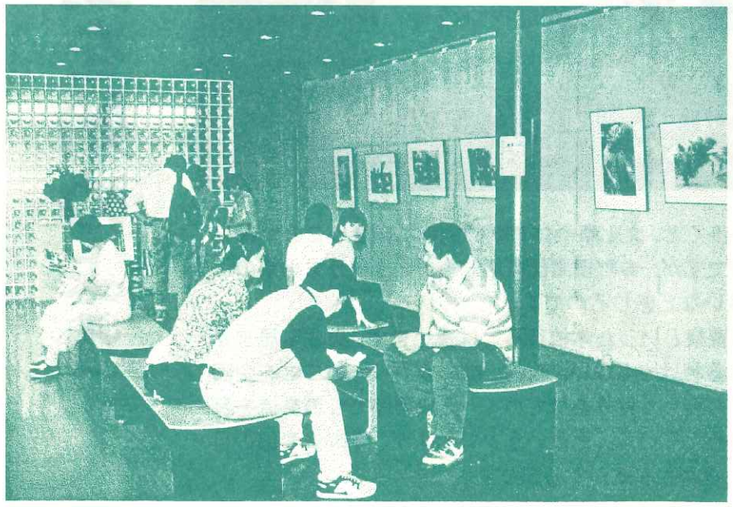
その“呼”に当たる活動が應典院寺町倶楽部が目標としているものと考えていただいてよいと思うのです。

しかし、それは、発表会や展覧会といった目に見える形ではありません。いわば、寺町倶楽部には仲間がいるといった安心感、應典院で感じた何かを気さくにおしゃべりできる開放感、そういった会員一人ひとりの心の中に、その形は現れてくるのだと思います。

はじめの一歩は出会いから

呼吸とか形とか書きましたが、あまり難しく考えないでください。今、あなたがやってみたいと思うこと、誰かに手伝ってほしいと思っていることを自由に語り合うことから始めましょう。

こんな人に出会いたいと思っている人を探してみてください。みんながどんな話をしているのか、聞きに来てください。最初の一歩は、共に出会うことだと思うのです。





事務局にできること

應典院にせっかくやって来ても、何かイベントのある時でなければ誰もいないんじゃないか、出会いもないんじゃないか、という不安は確かにあると思います。事務局ではそういった不安を取り除くためにも、出会いの機会を増やしていこうと考えています。

そのために、まず倶楽部にどのような人（性別、年齢、特技、やりたいことなど）がいるのかということを把握する必要があります。これを基に、共通の趣味ややりたいことを持っている人たちを、事務局がつなぐこともできるのではないかとも思います。また、みなさんが自由に閲覧して、活用できるデータベースも作成しようと計画しています。この情報はサリュに掲載したりするものではなく、まず、應典院に足を運んでいただいて、見ていただくものと考えています。

このように、会員同士や應典院にやって来る人が出会い、つながり、関わり合っていく中で具体的な活動を作っていきたいと願っています。わくわくするような時間をみんなで作っていきましょう。

あなたのプロフィールを教えてください！

同封のアンケートの主旨について

今回、アンケートを同封させていただいていますが、その主旨はまず第１に、会員管理データの確認、第２に寺町倶楽部の活動を進めるにあたり、会員間の交流を円滑にするためのデータベース作りです。返信方法は、封書、ＦＡＸ、持ち込みその他どのような方法でもかまいませんので、必ずご返信くださいますようお願いします。

公表データを基に、会員プロフィールファイルを作成し、事務局で会員なら自由に閲覧できるように考えています。この應典院に集い、会員同士の交流が数多く生まれることを期待しています。ぜひ、ご活用ください。なお、閲覧開始の時期については、次号のサリュにてご報告いたします。

〈管理データ〉

アンケート用紙は、管理データと公表データに分かれています。管理データは事務局で管理する部分ですので、必ずご記入の上ご返信ください。なお、管理データは会員間でも公表いたしません。

〈公表データ〉

公表データは、パブリック情報として会員間に公表し、交流の機会に役立てますので、できるだけご記入ください。仮に公表したくない項目があれば、空白でかまいません。

名前は、本名はもちろん、ペンネーム、ニックネーム、雅号でもＯＫです。連絡先は、住所の他、電話番号、E-mail、勤務先など、連絡の取りやすい方法ならなんでもＯＫです。事務局気付でもかまいません。その他の項目については、自由にご記入ください。

不明な点があれば、事務局までお問い合わせください。

EVENT REPORT

舞台芸術祭記者発表

舞台芸術祭に関する記者発表を、９月４日に行いました。出演団体からは、上海太郎氏、吉岡賢治氏、南船北馬一団の古谷晃一郎氏、同団の棚瀬美幸氏、應典院住職の秋田光彦氏が出席。新聞始め、情報誌などでも取り上げられました。

第４回寺子屋トーク開催 子ども虐待防止プログラムに多くの共感

９月10日、第４回寺子屋トークを開催、56人が参加しました。今回のテーマは、「自分を守ることのできる子どもになるために」。ＣＡＰスペシャリストの梅原昌子さんらを講師に、子ども虐待／いじめ防止プログラムを中心にしたロールプレイ上演、講演、相談会が行われました。紹介されたプログラムは通常は、子どもが暴力から自分を守るために、子どもを対象に実施されるものですが、参加者からはこの講演から得たものを子どもに伝えたい、ぜひ子ども対象にも実施してほしいという声が多く聞かれました。

事務局交流会実施、21人が参加

サリュ３号でお知らせしました、事務局スタッフ募集のための事務局交流会を９月12日に実施したところ、21人もの方々が集まってくださいました。ボランティア活動をしている学生もいれば、劇団を主宰している人、「まず会員同士話がしてみたくて来た」という人など、さまざまな思いを持った人たちの出会いの場になったのではないかと思います。今号で使用した写真の多くは、この交流会に参加してくれた大阪芸術大学写真学科の学生さんたちが撮影してくれたものです。

シアトリカル應典院　舞台芸術祭スタート

寺町倶楽部のもっとも大きなイベント事業である「シアトリカル應典院　舞台芸術祭　ＳＰＡＣＥ×ＤＲＡＭＡ'97」が10月３日、いよいよスタートしました。各公演とも盛況のうちに進んでいます。前半の公演の様子は４ページに速報として掲載しています。残りの公演も僅かになってきました。劇場空間に変身した應典院にどうぞお越しください。



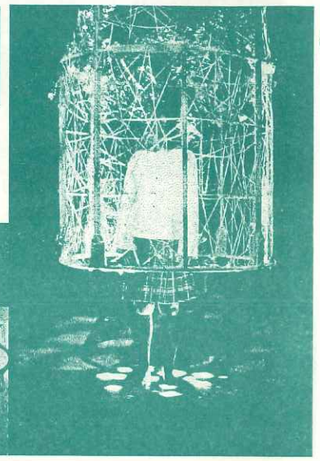
吉岡賢治と嵜田ハヂメのポケット劇場
10/9～12

シアトリカル應典院舞台芸術祭
SPACE☒DRAMA'97

速報

10月3日から始まった舞台芸術祭。演劇あり、パントマイムあり……、アーティストたちの熱気であふれています。

写真撮影：平畠美都、田中さえ、槇澤孝子





南船北馬一団
『忱映綺譚～アリスのサンプルポートレート～』
10/3～5





10月3日から舞台芸術祭がスタートしました。3日～5日、オープニングを飾った南船北馬一団の演劇公演『忱映綺譚(しんえいきたん)～アリスのサンプルポートレート』は、総入場者数318名と賑わいました。

作・演出された南船北馬一団の棚瀬美幸さんから、今回の芝居を創りあげるまでの2ヶ月間に感じたことを寄稿いただきました。

10月3日の本番に向けて、夏真っ盛りの8月から2ヶ月間、應典院に通った。千日前通りのゆるやかな下り坂をうつむき加減で歩いていると、突然「ようっ」と声をかけられたことがあった。「誰だ、劇団員か？」と思い首を上げると、見知らぬおじさんが笑っていた。「元気でな」おじさんはそう一声かけると、錆びた自転車をギーギーいわせながら坂を上がっていった。稽古場に着いた私は、ジュースを買いに近くのコンビニに向かった。その時も足下を見ながら歩いていたのだが、ある人とのすれ違いざまパッと顔を上げた。赤茶けたワンピースに濃すぎるチーク、リヤカーを引く曲がった腰、その上で絡まっている切れ切れの髪……。その人は日本橋の夕方に似合っていた。この街は力強い、ひたむきにでも生きていく覚悟ができている。

公演初日の朝、應典院の周りを走った。生魂神社を抜け、ラブホテルの筋へとこの街の生と俗とを駆け抜けていく。公演前のピリピリした感情が、足音と共に街に飲み込まれていくような感じがする。

俗にまみれた今回のお芝居を、ご本尊様は静かに見守っていてくださった。ホールを一歩出ると、墓石のならんだ眠れる空間が生きている私達を取り巻いている。観に来てくれた人に「このお芝居には救いがない」と言われたが、ここには救いが存在している。

この場所で作品を作れたことに心より感謝しています。

Q&A 應典院の施設利用のご案内

舞台芸術祭が始まり、應典院はまさしく劇場寺院に生まれ変わりました。演劇、コンサート……、いろいろな催しが続いています。会員のみなさんも、さまざまな形で應典院をご利用ください

Q. 演劇をする際に、應典院の設備としてはどのようなものが利用できますか？

A. ご存じのように、音響、照明設備は本格的なものを備えていますし、舞台設置用には平台12枚、箱馬33個、タイルカーペット(グレー)100枚があります。幕類は、大黒幕1枚、袖幕3対などがあります。しかし、どれも数に限りがありますので、それ以上に必要な場合は持ち込んでいただくことになります。機材の詳しい一覧は、お問い合わせください。

Q. 交流広場や気づきの広場を待ち合わせや簡単な相談に使用するのはよいのでしょうか？

A. 交流広場、気づきの広場はパブリックスペースです。ですからもちろんOKです。應典院は、人が集まり、出会う場であってほしいと思います。会員の如何にかかわらず、さまざまな人にご利用いただけたらと思います。また、交流広場では、喫茶コーナーを設けましたので、どしどしご活用ください。

Q. 催しの後に、交流会を考えたいと思っていますが、そのようなことは可能でしょうか？

A. 今までの應典院の催しで、立食パーティなどを行っていますので、可能です。本堂ホールで催しを行い、気づきの広場で交流会という形がベターではないでしょうか。ケータリングサービスのお世話もできますので、ご相談ください。ただ、意味のある交流会であってほしいと思いますので、単に飲み会をしたいのでという主旨のものは、ご遠慮ください。

【新入会員ご紹介】

(1997年10月18日まで)

8月12日以降にご入会いただいた方々です。ありがとうございました。

○一般会員

【大阪府】
池端　幸代　大阪市中央区
尾上　好枝　大阪市中央区
高橋　和江　大阪市中央区
西本加津子　大阪市中央区
三次　召尚　大阪市中央区
好川　文子　大阪市天王寺区
間宮田鶴子　大阪市天王寺区
中岡　幸子　大阪市天王寺区
奥野　翠　大阪市阿倍野区
渥美ゆみ子　大阪市大正区
中田　豊一　尼崎市

【奈良県】
李　由子　奈良市

【和歌山県】
日野　晃　西牟婁郡

○学生会員

【大阪府】
大兼久　出　吹田市

【兵庫県】
豊満　晶子　神戸市灘区

○法人会員

【兵庫県】
レクタス教育研究所　西宮市

以上16名、現在319名

應典院掲示板

■北朝鮮募金、ありがとうございました

前回サリュに同封して呼びかけた「北朝鮮子ども飢餓募金」に、総勢21名のみなさんから、総額103,776円の募金を寄せていただきました。本当にありがとうございました。

マスコミ報道などでもご承知の通り、北朝鮮では大規模な干ばつのため、これまでにない食糧難が続いています。人道的見地から、食糧援助に乗り出した日本のNGOの呼びかけに呼応して、應典院でも募金活動を続けていました。

頂戴した募金は、應典院が加盟する仏教系NGOアーユス＝仏教国際協力ネットワークを通じて、現地に届けられます。食糧の買い付けや現地での調査や配給など、日本人スタッフが同行して行われますので、いずれ何らかのかたちでご紹介できると思います。

以上厚くお礼申し上げます。

■年末には自分感謝祭にどうぞ

少し気の早い話ですが、今年12月26日に應典院で初のオリジナル法要〈自分感謝祭〉が開催されます。昼14時・夜19時の2回。これは、歳末に去り行く1年と別れ、わたし自身を供養するもの、本邦初の手づくりの法要となります。パイプオルガンの音色による仏讃歌の演奏、秋田住職のお話もあります。

また26日夜の部終了後、トークサロンの年忘れ交流会も併催されます。どなたでも参加できますので、いまからぜひ予定をしておいてください。詳しくは同封チラシを。

■授戒会に40名を超える参加申込み

先にご案内の〈いのちの誓い・授戒会〉に10月17日現在43名のお申込みをいただいております。20代から70代まで、お顔ぶれはさまざまですが、いずれもこの機会に仏道を修めたいという真摯な方ばかり。

授戒会は11月22日～24日まで3日間開催ですが、もし見学ご希望の方は、一定時間可能ですので、一度應典院までお問い合わせください。22・23両日とも夜には、自由参加のトークセッションもあります。